

積算温度から積算肥満度、積算脂質等を考える

富山県厚生連健康管理課 大浦 栄次

積算温度

植物界の研究において、積算温度は植物の開花等に指標として極めて重要な因子となっている。つまり、日平均温度×日数がある一定以上になると開花が始まるという訳である。桜やチューリップ、稲などについてはよく研究されている。このことを敷衍して私は、積算肥満度や積算コレステロール、積算中性脂肪、積算血糖等々、種々の検診項目について思いを巡らせてみた。

よく知られているように、タバコの喫煙本数×年数はブリックマン・インデックスとして肺癌を中心とした癌のリスクファクターとして様々な指標に使用されている。ところが、その他のものには浅学の故か、適用された事例をついぞ見たことがない。

積算肥満度、積算脂質等々…

今日、健康管理が全国的に叫ばれ、膨大な健康に係わる数値が日々生産されている。これらの数値は、検診受診者を直接、健康者と亜健康者、病人とにふるい分けされるのに使用されている。それはそれで重要な事業である。

ところで、この検診データも年々蓄積されてくると、同一人のデータが10年、20年分のものが集積されてくる。このデータをもとに一個人の積算肥満度等を算出することが可能となる。

つまり、各年度の肥満度×年数と表現するのである。

例えば、31才が初回受診として、それ以後の肥満度が、表1の通りとし、40才の時に検診を受け、その才の肥満度が20%であるか

ら単純に肥満度20%、つまり肥満とするのではなく、積算した肥満度154%をも、検診の指標に使えないものかと考えるのである。

さらに、年齢によって同じ肥満度であっても、身体への負荷が異なるものとする年齢による負荷係数を掛け合わせ、年齢訂正肥満度を算出する方法も考えられる。表1の事例では、年齢訂正積算肥満度は117.2%である。

このように算出した積算肥満度や、年齢訂正積算肥満度をもって、種々の健康度や、疾病の説明因子にできないかと夢想するのである。これは、単に肥満度だけでなく、アルコール摂取量や、コレステロール、血糖値、γ-GTP等々にそれぞれ、積算血糖、積算コレステロール等として健康度の比較を試みようというものである。

現在、富山県厚生連の検診センターは平成元年7月15日をもって、10年を迎え、10年間連続受診者もある程度マスになりつつある。これらの検診データをもって、以上のことを試みたいと夢想する今日この頃である。

表1 積算肥満度と訂正積算肥満度私案

年 令	肥満度	年 令 負荷係数	肥満度× 年令負荷係数
31	8%	0.5	4.0
32	10%	0.5	5.0
33	13%	0.5	6.5
34	12%	0.5	6.0
35	15%	0.7	10.5
36	18%	0.7	12.6
37	18%	0.7	12.6
38	20%	1.0	20.0
39	20%	1.0	20.0
40	20%	1.0	20.0
合 計	154%		117.2